



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第七一号〉

小雪 しょうせつ
十一月二十二日



新しい宇治橋

五十鈴川に架かる宇治橋が新しくなりました。

渡始式の日、輝くような橋をさっそく渡ってみると、ヒノキの木肌の美しいこと。木の香もほんのりと漂い、身体の底から喜びが湧いてきました。

新しい橋を渡る、それはどんな気持ちができるものだろう。完成が近づくにつれ思っていたのですが、一緒に渡った人たちの笑顔や歓声など共に喜んだことが印象に残りました。これから二十年幾度となく橋を渡るでしょうが、折に触れ、この渡り初めを思い出すのかもしれない。

夜には宇治四ヶ町しよかまちの皆さんによる提灯行列がありました。宇治橋前で待っている、暗いおはらい町の通りに高張提灯を先頭にしたり行列が現れました。人々の手には赤い提灯が灯され、木遣り歌も高々と響きます。ゆっくりと歩を進めた行列は宇治橋前で万歳三唱をして、宇治橋を渡っていました。おそらく内宮前のお膝元に住まう人々にも、渡り初めの記憶が刻まれ、新しい橋ともに二十年を過ごしていくことでしょう。

新しくなったのは宇治橋だけではありませんでした。渡始式を前にした十月の中ごろ、宇治橋の守護神である饗土橋姫神社あえどはしひめが新しくなり、遷座祭せんざさいが執り行われていました。渡始式の日、まずここで橋の安全祈願が行われた後、渡り初めがありました。ヒノキの真新しい社殿は森の中でひときく輝いています。ここは神宮の一二五社の一つですが、まずはここを新しくして、宇治橋を架け替え、そして風日祈宮橋かぜひのみみや、火除橋と進みます。

新しい宇治橋を祝う冬となりそうです。

文 千種清美

